

ABBYY®

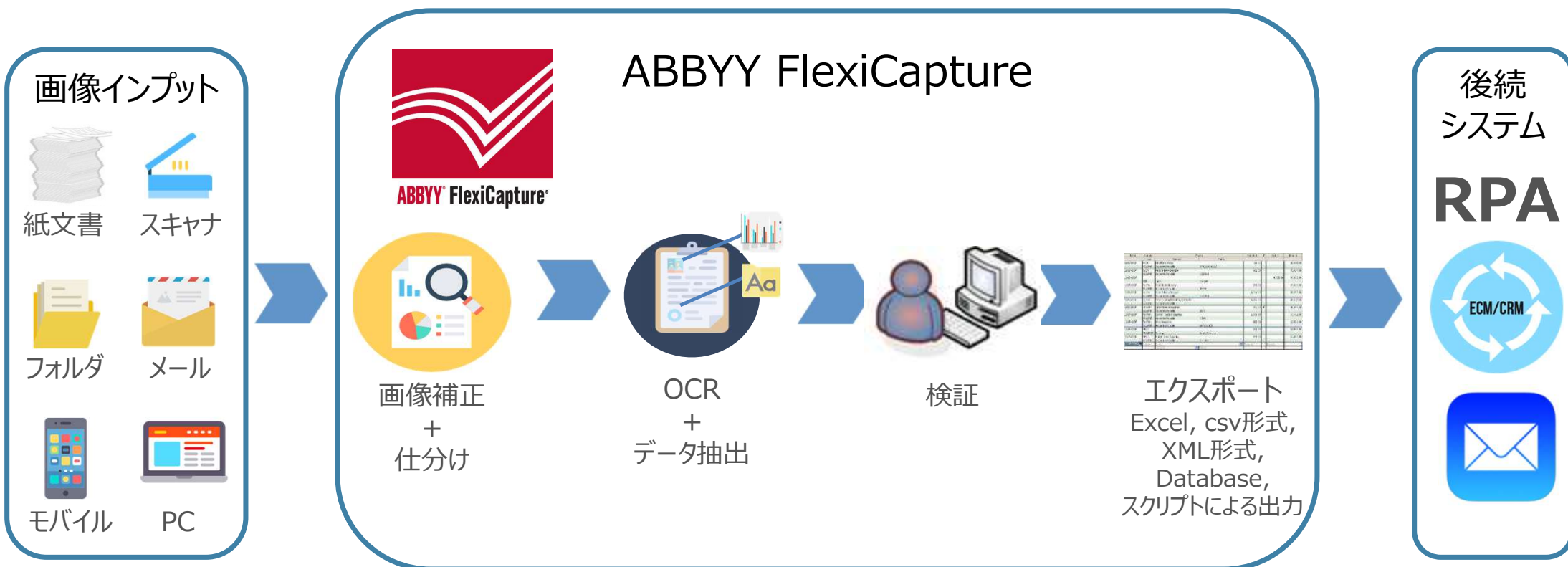
FlexiCapture
Project 概要



ABBYY FlexiCapture 概要



ABBYY FlexiCaptureは、画像文書をビジネスで使用可能なデータに変換する文書処理ソリューションです。



画像取込から、画像補正、仕分け、OCR、データ抽出、結果を確認・修正する検証、エクスポートまで、一連の機能を高度に備えています。

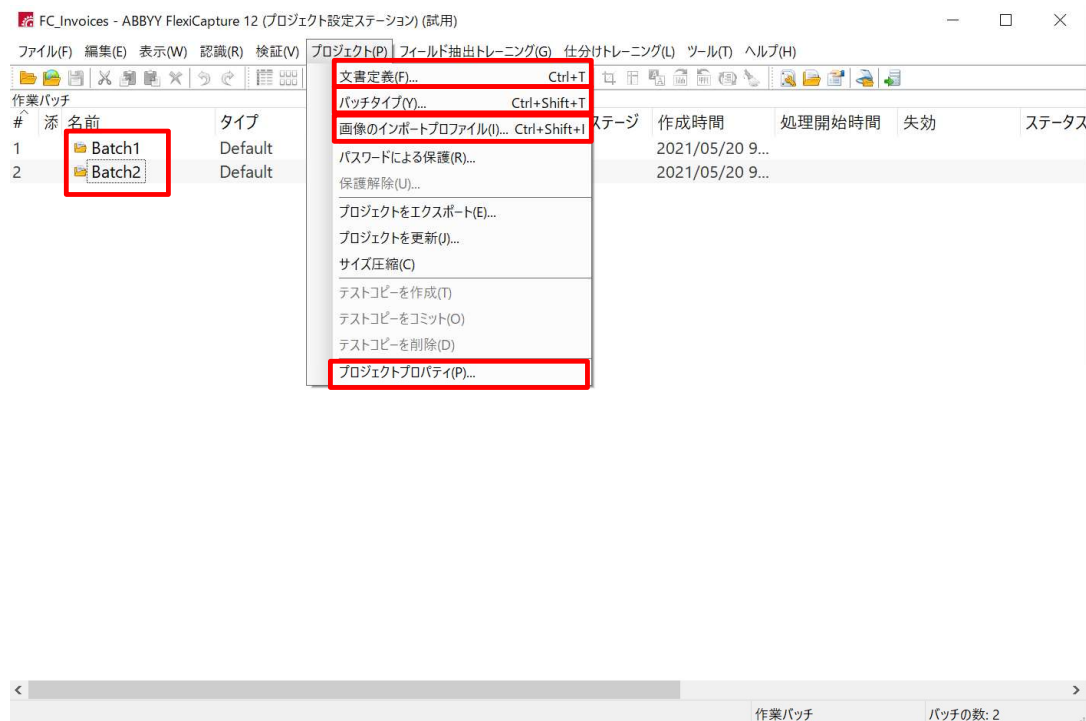
FlexiCapture Project

FlexiCaptureにおけるProjectとは、「画像取込～仕分け～OCR～データ抽出～検証～エクスポート」の処理プロセス全体を指します。Project毎に個別のプロセスが管理され、(Distributedでは)複数のProjectを同時に運用可能です。

以下、Project 構成となります。

●Project 構成:

- 文書定義
- バッチタイプ
- 画像インポートプロファイル
- プロジェクト設定
- 作業バッチ(*)
- Classifier (オプション)



*バッチとは、文書処理の単位を指します。バッチ毎にプロセスが実行され、バッチ間は疎結合(別々に処理)となります。

プロジェクト設定ステーション

FlexiCapture Project

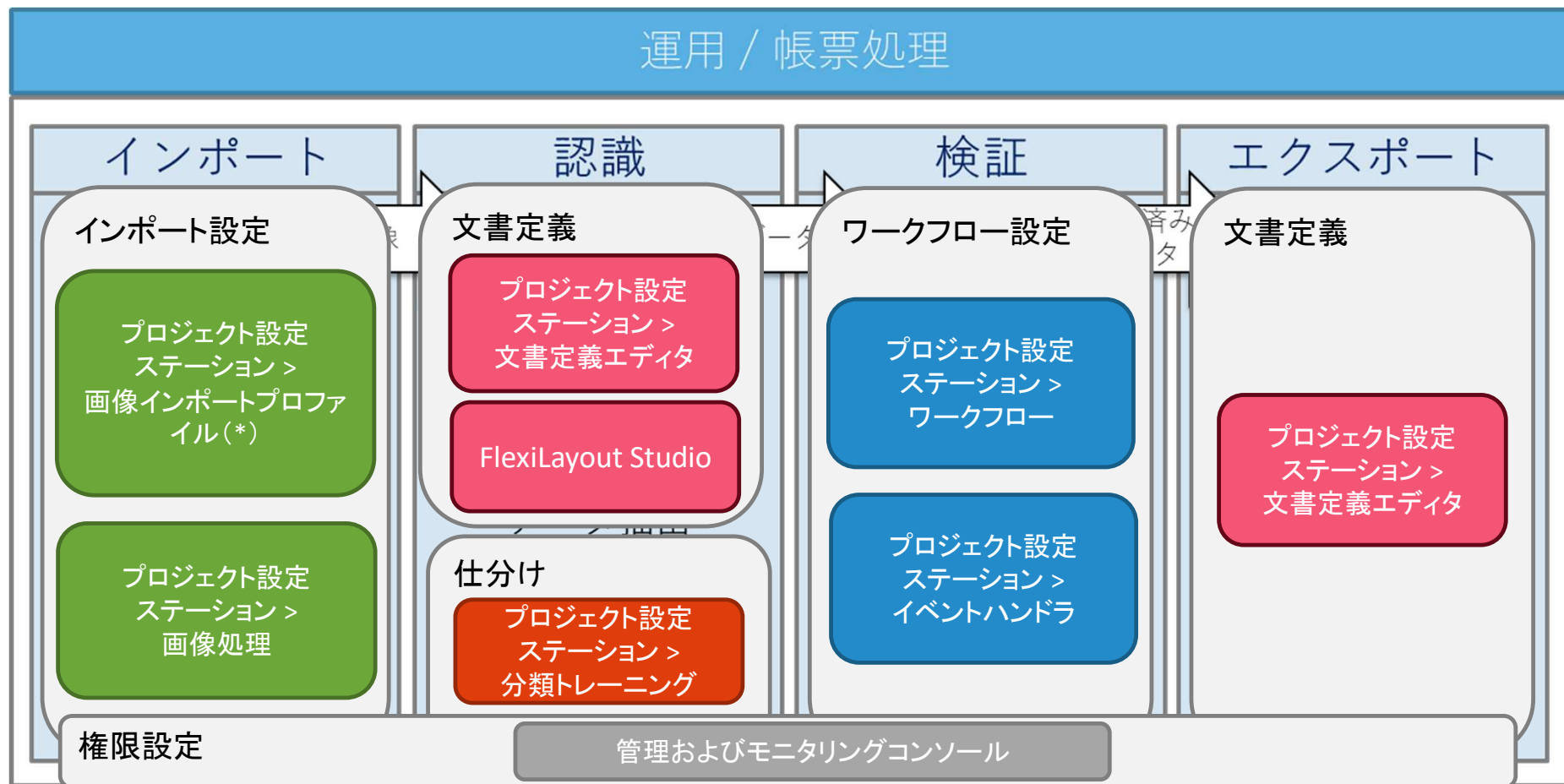


Project 構成要素の概要は以下の通りです。

項目	説明
文書定義	仕分け、データ抽出、チェックルール、アセンブリ(ページ構成)、エクスポート、等の設定。 画像フォーマット毎に複数の文書定義を登録可能。
バッチタイプ	バッチ毎に、特定のバッチタイプを適用可能(指定しない場合はDefault)。 バッチタイプ毎にProject設定(画像処理、文書定義、ワークフロー、等)を変更する事が可能。 従って、Project設定とバッチタイプ設定は基本的に同義。
画像インポートプロファイル	画像取込の設定(スキヤンステーションを除く)。 フォルダ監視(ホットフォルダ)、FTP、メール監視、等が可能。
プロジェクト設定	画像処理、イベントハンドラ、ワークフロー、等の設定。 バッチタイプが指定されない場合、プロジェクト設定 = Defaultバッチタイプとして適用される。
作業バッチ	現在処理中のバッチ一覧が格納される。
Classifier (オプション)	文書定義による仕分けの前段階で、より高度な仕分けを実施する事が可能。その場合、Classifier(分類子)を設定する。

FlexiCapture Project 設定

FlexiCapture 処理プロセスとProject 設定内容のマッピングを以下に示します。



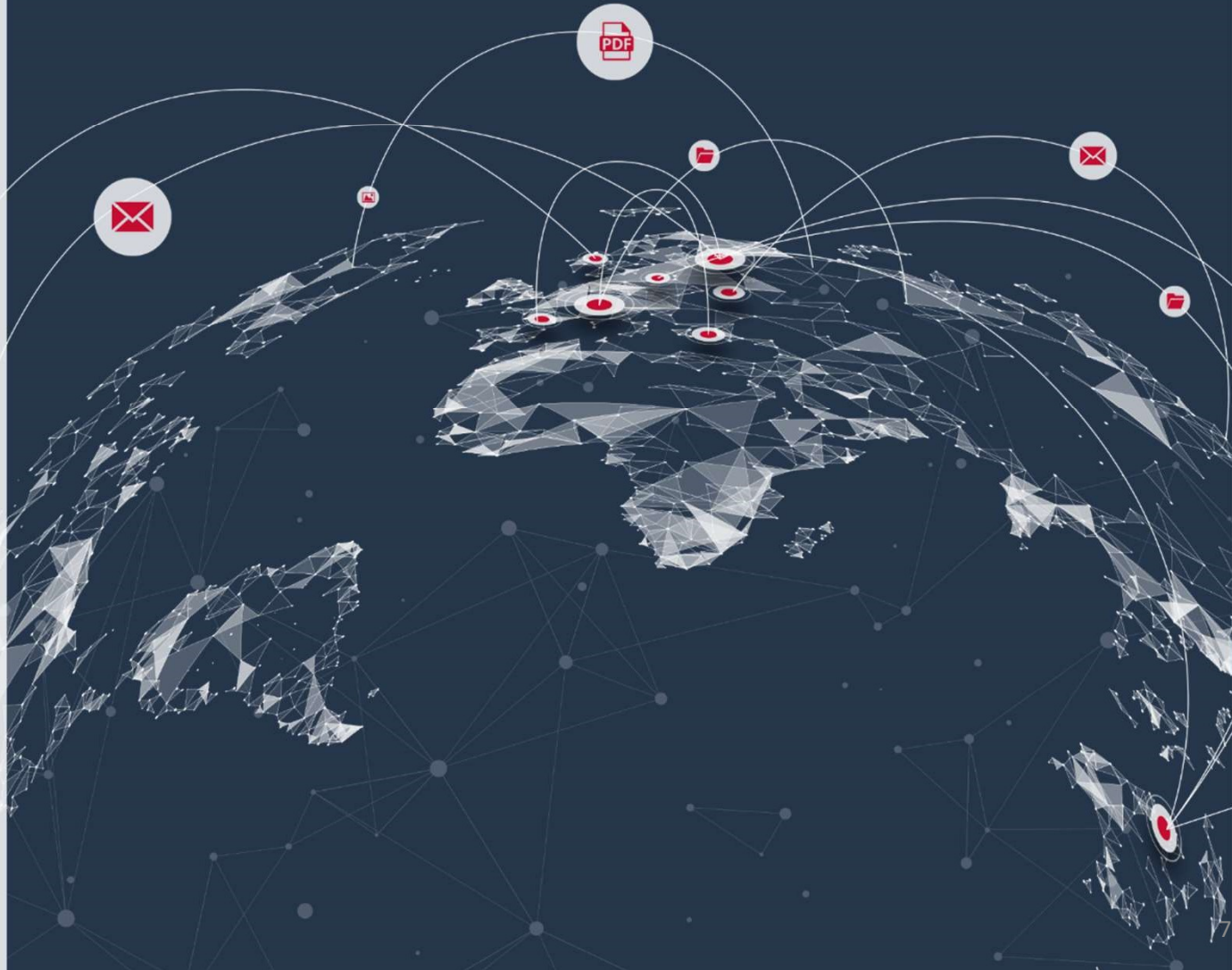
FlexiCapture Project 設定



FlexiCapture Projectの各設定項目について、概要を示します。

項目	説明	関連ドキュメント
画像インポート設定	画像取込、画像処理設定。	・本ドキュメント
文書定義	仕分け(簡易版)、アセンブリ(ページ構成)、データ抽出、イベントハンドラ、エクスポート設定、等。	・文書定義基礎 ・FlexiLayout定義応用 ・FlexiCapture文書定義応用
ワークフロー設定	検証を含む、文書処理ワークフロー、イベントハンドラ設定。	・本ドキュメント
仕分け	高度な仕分け設定(オプション)。	・文書仕分け応用
権限設定	ユーザ権限設定。	・本ドキュメント

FlexiCapture Distributed Project 設定

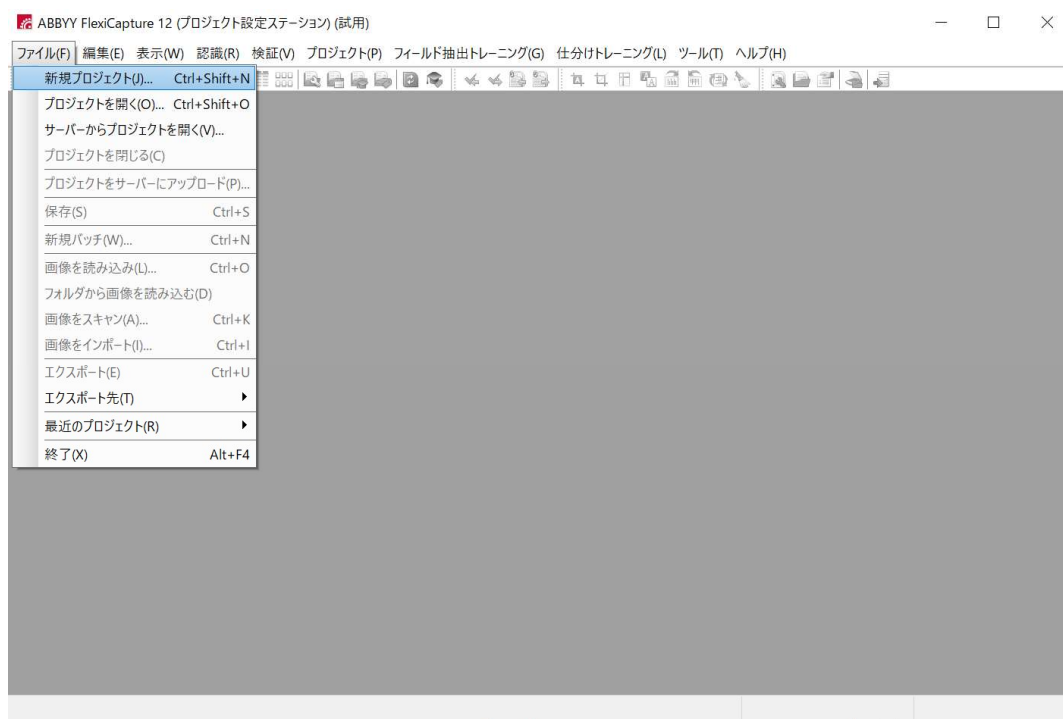


FlexiCapture Project 作成・設定ステップ



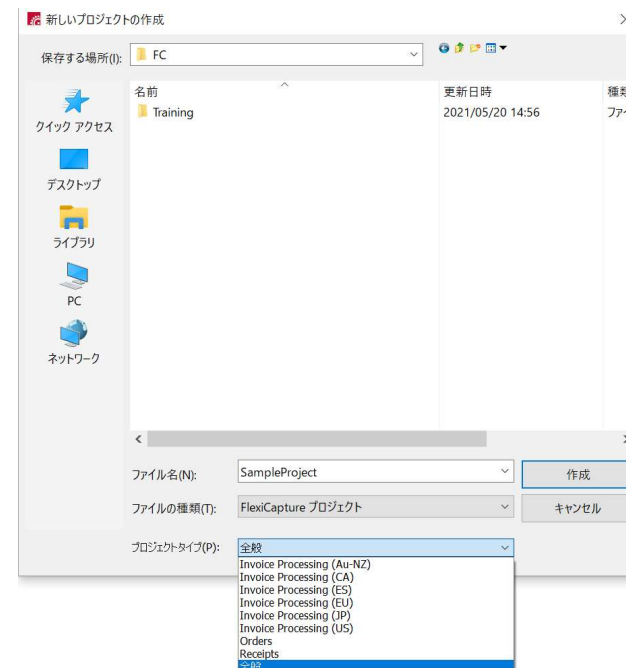
1. FlexiCapture Project新規作成 1/2

プロジェクト設定ステーションを起動し、「ファイル > 新規プロジェクト」を選択



2. FlexiCapture Project新規作成 2/2

ダイアログで、適切なプロジェクトタイプ(通常、全般)を選択、適当なProject名を付け、作成ボタンをクリック

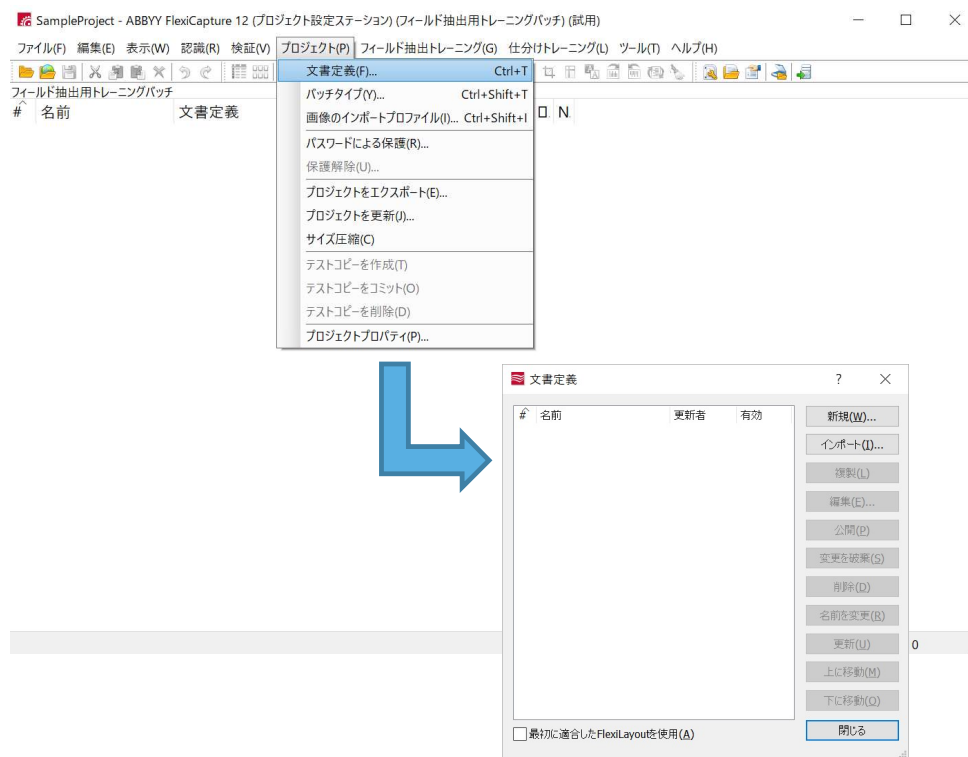


FlexiCapture Project 作成・設定ステップ



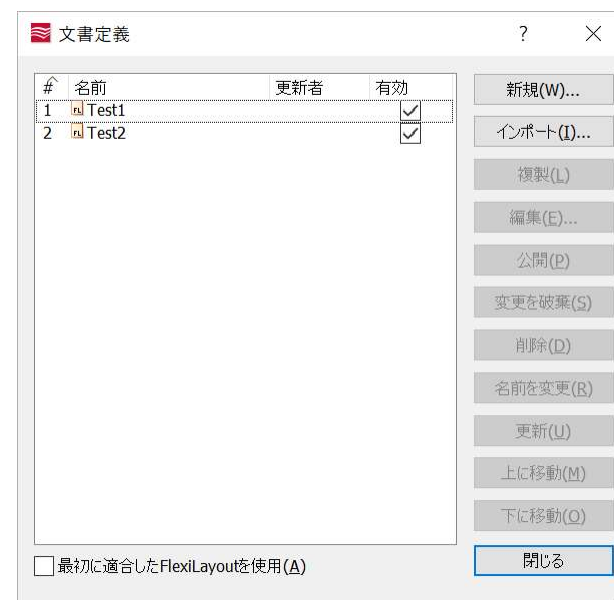
3. 文書定義作成 1/2

プロジェクト > 文書定義を選択し、文書定義ダイアログを開く。



4. 文書定義作成 2/2

文書定義ダイアログで、「新規」または「インポート」ボタンをクリックし、1つ以上の文書定義を作成。(*1)



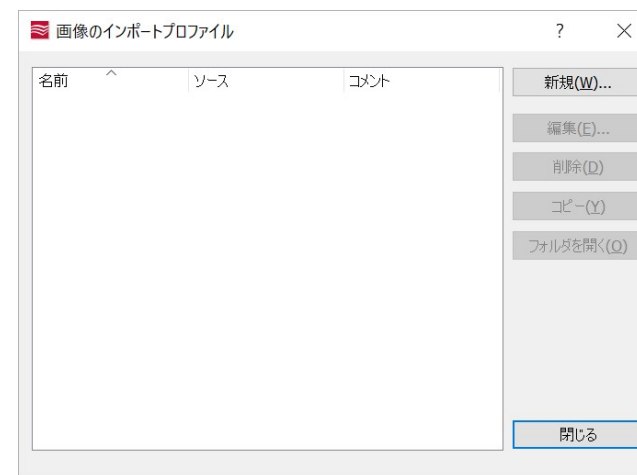
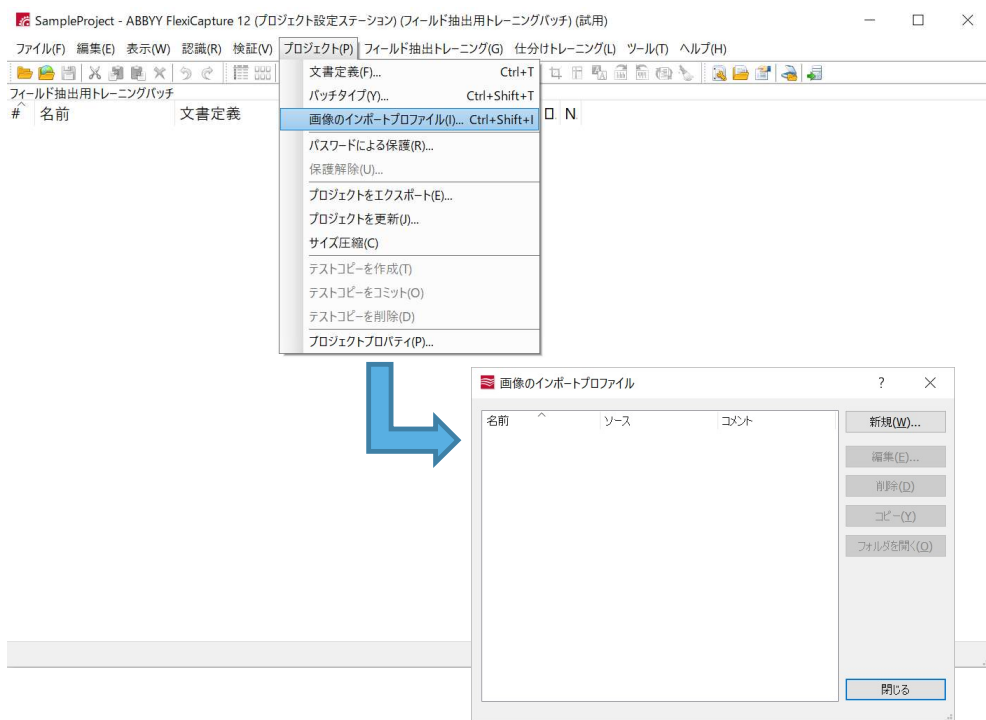
*1: 作成方法詳細については、「文書定義基礎」を参照。

FlexiCapture Project 作成・設定ステップ



5. 画像インポートプロファイル(フォルダ監視)設定 1/2
プロジェクト > 画像のインポートプロファイルを選択し、
画像のインポートプロファイルダイアログを開く。

6. 画像インポートプロファイル(フォルダ監視)設定 2/2
画像のインポートプロファイルダイアログで、「新規」ボ
タンをクリックすると、インポートプロファイルウィザード
が起動するので、設定を実施する(*1)。

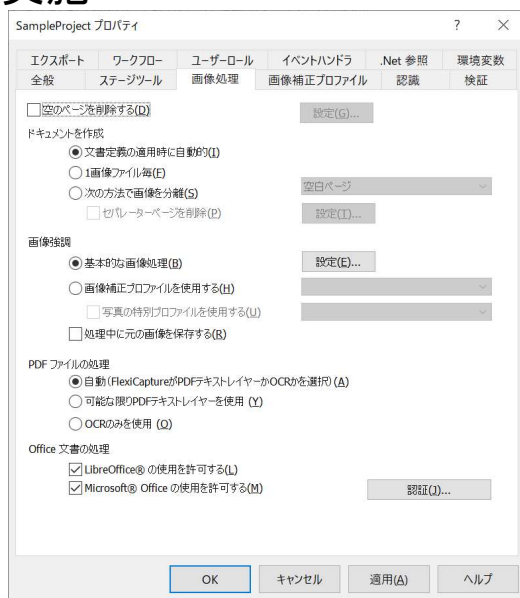


*1: 設定方法については、付録参照。

FlexiCapture Project 作成・設定ステップ

7. 画像処理設定

プロジェクト > 画像処理を選択し、必要な設定を実施



設定方法については、付録 > 画像処理設定を参照。
※インポートプロファイルで設定している場合、インポートプロファイルで設定します。

8. イベントハンドラ設定

プロジェクトのプロパティ > イベントハンドラを選択し、必要なイベントにチェックの上編集する。



設定方法については、付録 > イベントハンドラ設定を参照ください。

FlexiCapture Project 作成・設定ステップ

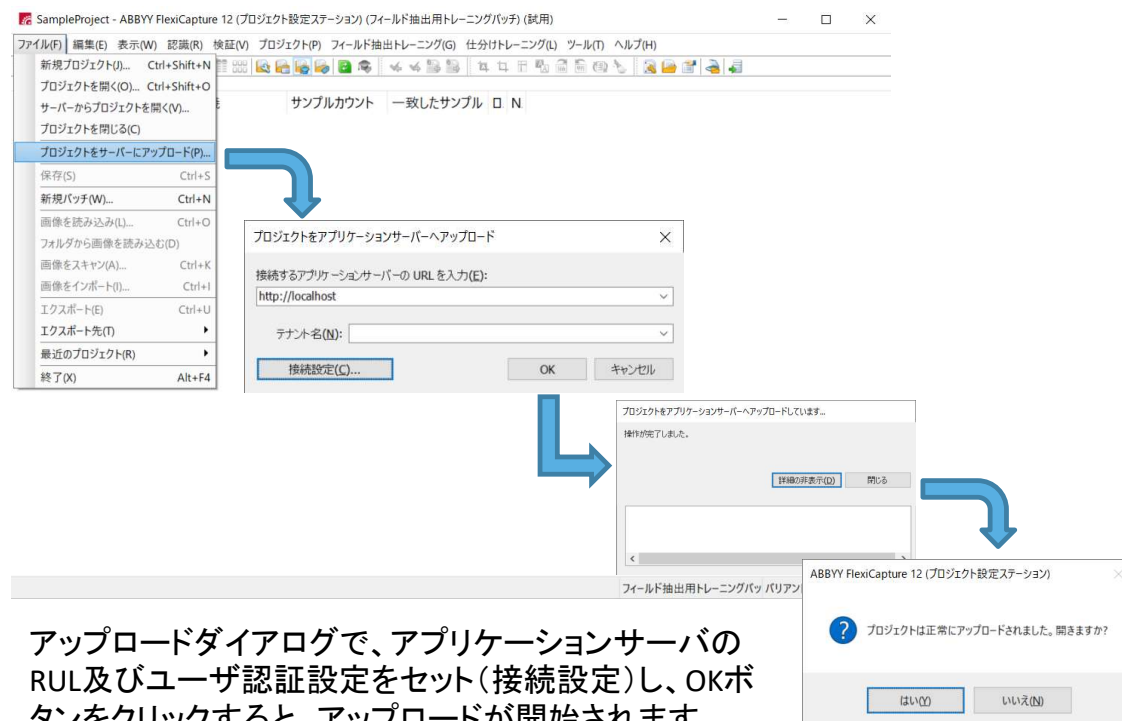


8. ワークフロー設定 (Distributedのみ) プロジェクト > ワークフローを選択し、設定を実施



設定方法については、付録 > ワークフロー設定を参照ください。

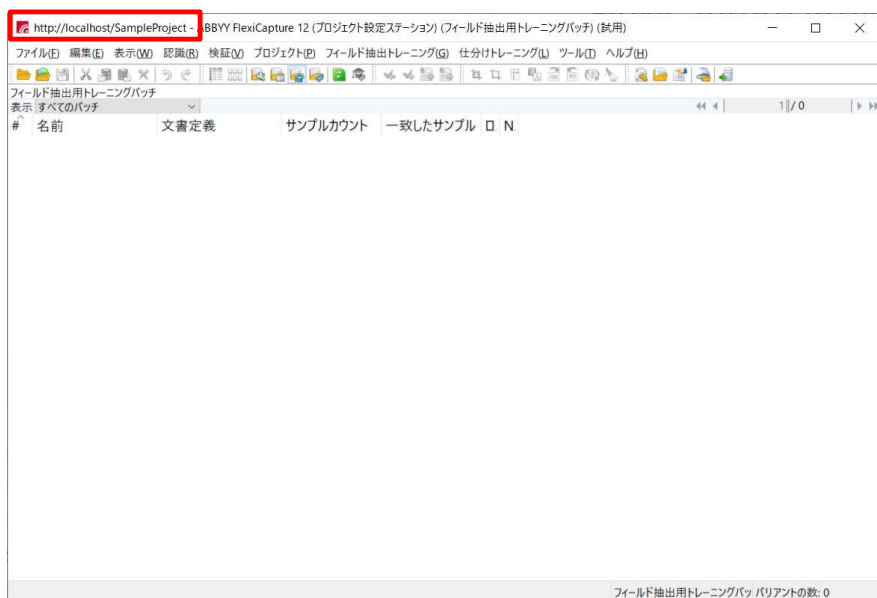
9. プロジェクトアップロード (Distributedのみ) ファイル > プロジェクトをサーバーにアップロードを選択



アップロードダイアログで、アプリケーションサーバーのURL及びユーザ認証設定をセット(接続設定)し、OKボタンをクリックすると、アップロードが開始されます。

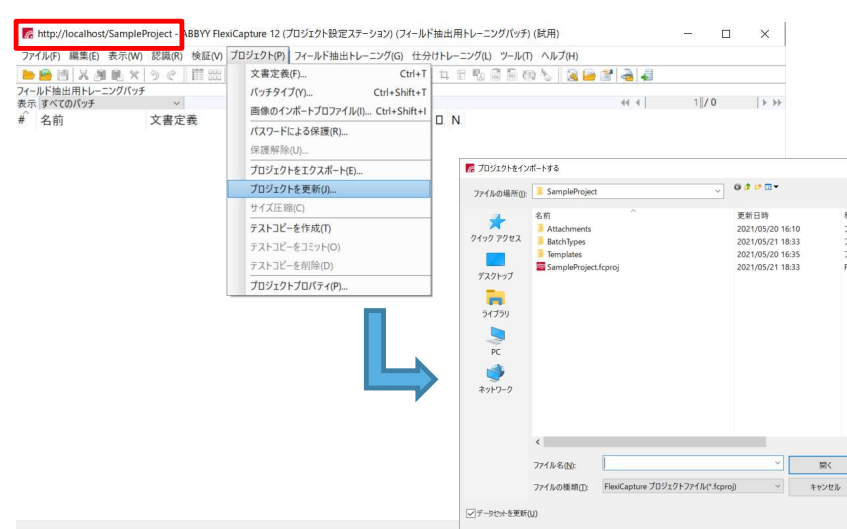
FlexiCapture Project 作成・設定ステップ

10. アップロードされたサーバ上のProjectを開く (ファイル > サーバからプロジェクトを開く、でも可能)



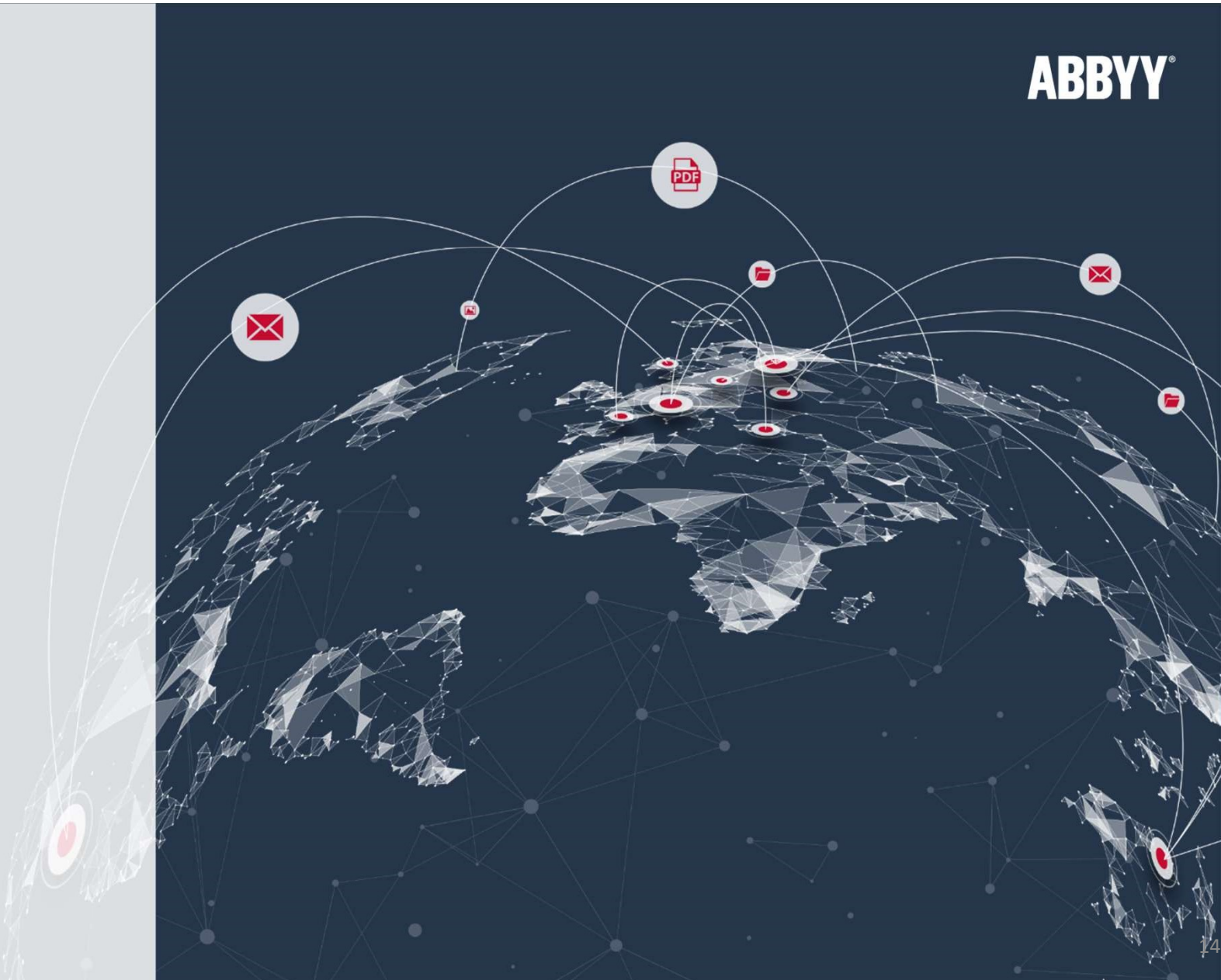
サーバのProjectを開くと、上記のようにアプリケーションサーバのURL+Project名という形で表示されます。
ローカルProjectはあくまで簡易テスト用であり、サーバProjectでのみ、ワークフローやホットフォルダの利用が可能となります。

11. プロジェクト更新 (Distributedのみ) プロジェクト > プロジェクトを更新を選択



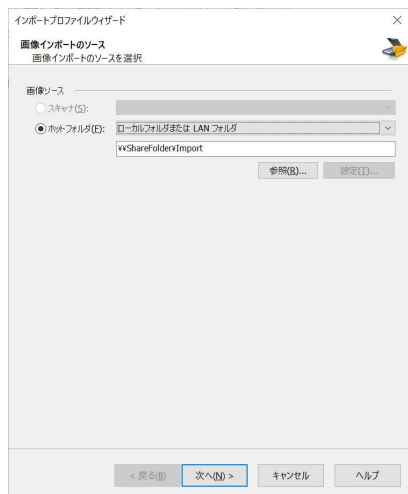
サーバProjectを開いた上で、「プロジェクトを更新」を選択すると、ファイル選択ダイアログが開くので、そこでローカルProject (fcprojファイル) を選択します。

付録



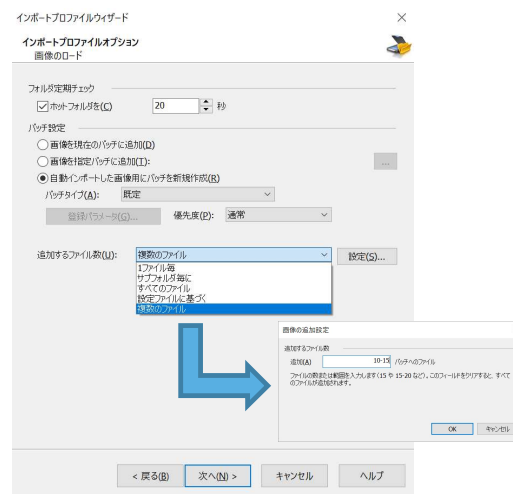
画像のインポートプロファイル作成方法(ホットフォルダの場合) 1/2 **ABBYY**

1. 画像ソース



画像ソースとして「ホットフォルダ」を選択し、監視先フォルダを指定する。
※Distributedでは、ネットワークパスのみ指定可能。

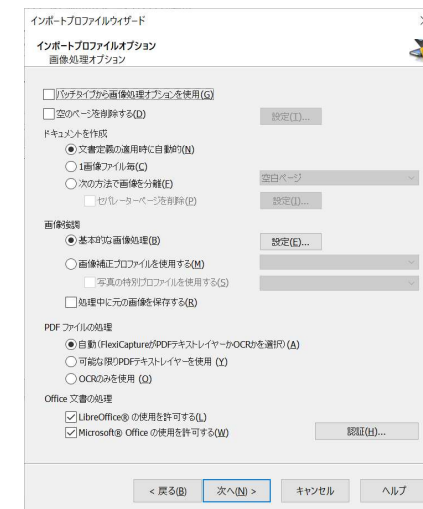
2. インポートプロファイルオプション



フォルダ定期チェック: 監視間隔を設定
バッチ設定:

1. 「自動インポートした画像用にバッチを新規作成」を選択
※ Distributedの場合、上記以外選択不可
2. 使用するバッチタイプを選択
3. ファイル数: 「複数のファイル」の場合、上記のようにファイル数を指定

3. 画像処理オプション



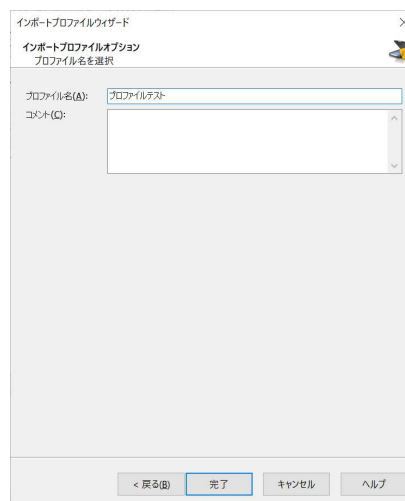
画像処理については、本ドキュメント > 付録 > 画像処理設定、を参照。

画像のインポートプロファイル作成方法(ホットフォルダの場合) 2/2 **ABBYY**

4. ホットフォルダクリーンナップオプション



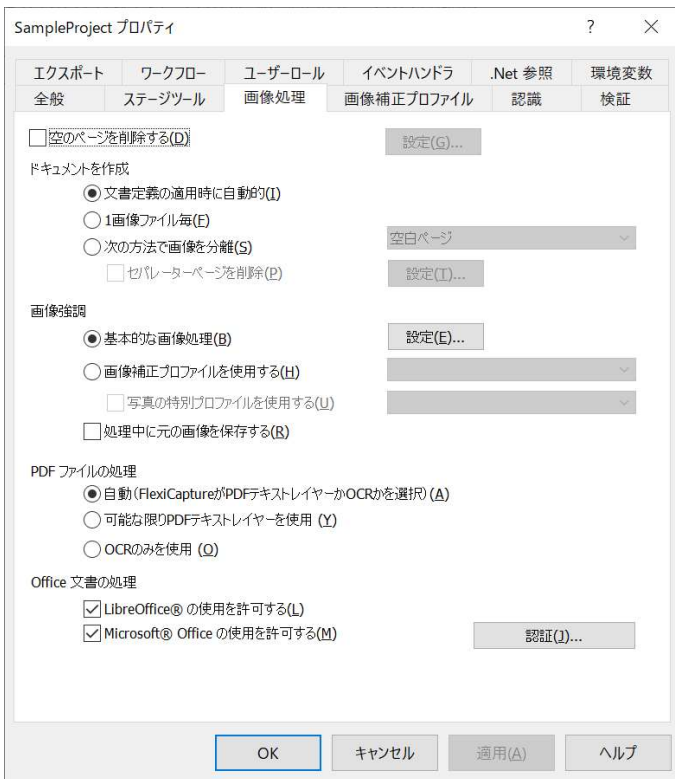
5. プロファイル名付与



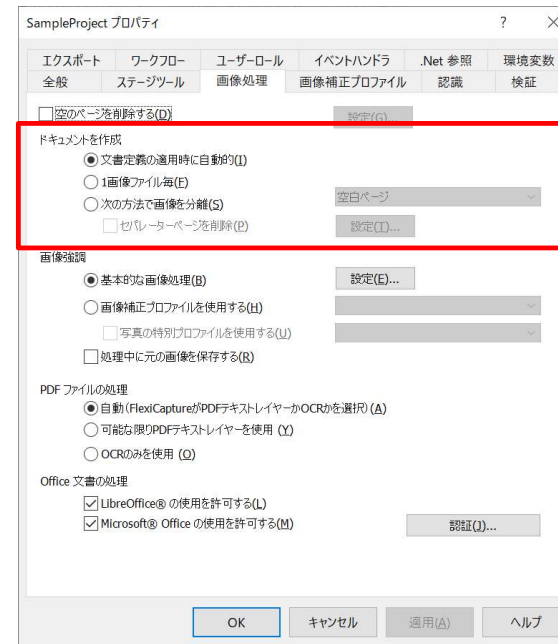
画像取込後の処理内容を設定。

画像処理設定 1/3

1. プロジェクト設定ステーション > プロジェクトのプロパティ > 画像処理を開く。



2. ドキュメントを作成



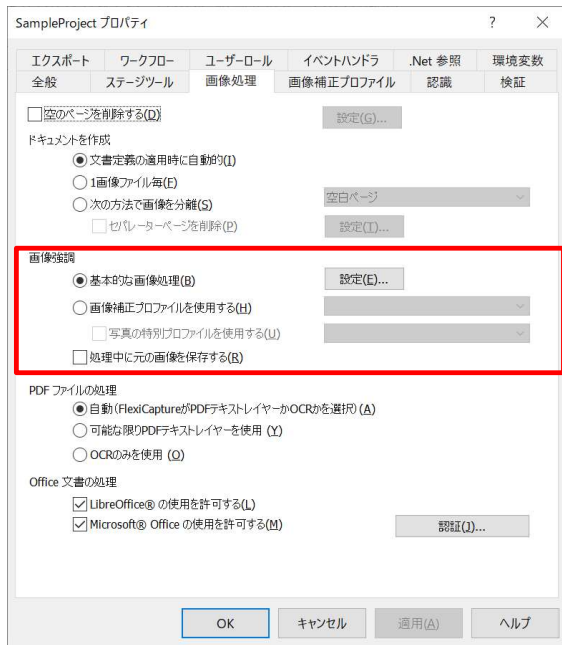
バッチ内画像に対し、文書分割ルールをチェック

- ・文書定義の適用時に自動的: 文書定義に従う (Default)
- ・1画像ファイル毎: Tiff, PDF, 等の場合, 1入力ファイル=1文書として扱う。
- ・次の方法で画像を分割: 「白紙ページ」「バーコードページ」を文書分割セパレータとして利用

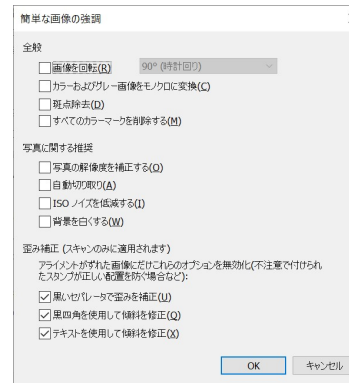
画像処理設定 2/3



3. 画像強調



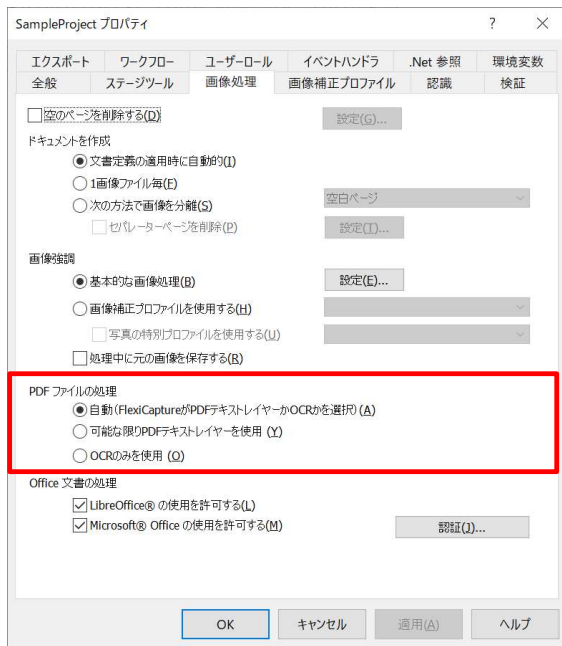
・基本的な画像処理(Default) : 設定ボタンをクリックし、下図の設定パネルより必要な処理を選択。



・画像補正プロファイルを使用する: 画像補正プロファイル(詳細は、付録 > 画像補正プロファイル、を参照)

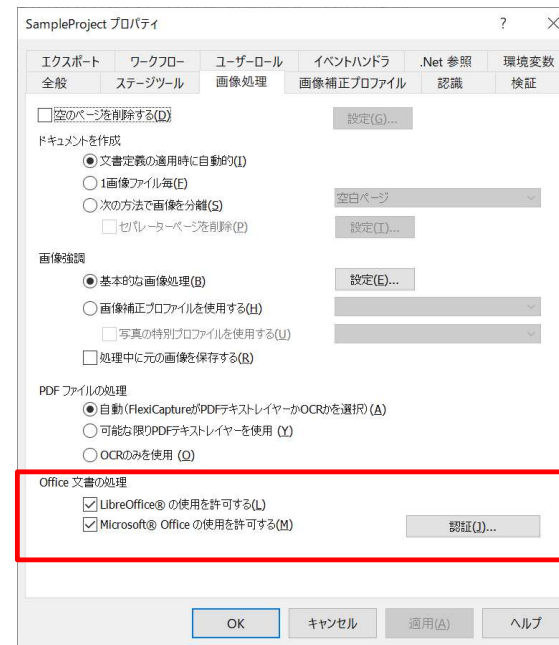
画像処理設定 3/3

4. PDFファイルの処理



入力がPDFの場合、PDFのテキストレイヤ情報(存在する場合)を使用するかどうかを選択。

5. Office文書の処理



入力がOffice文書の場合の処理設定。

画像補正プロファイル

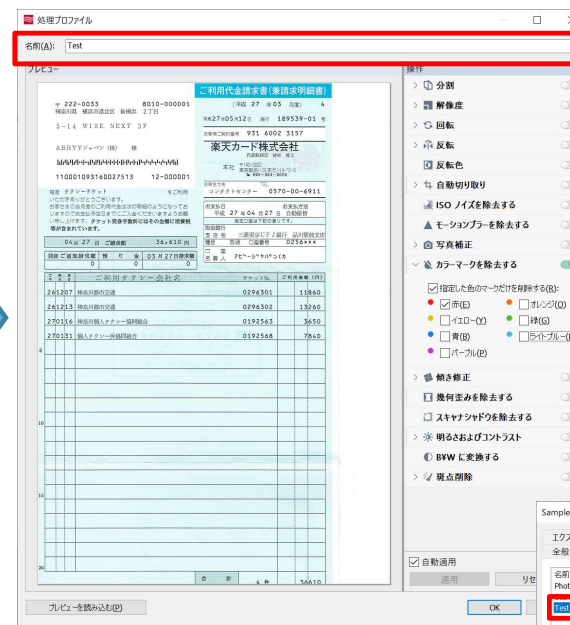
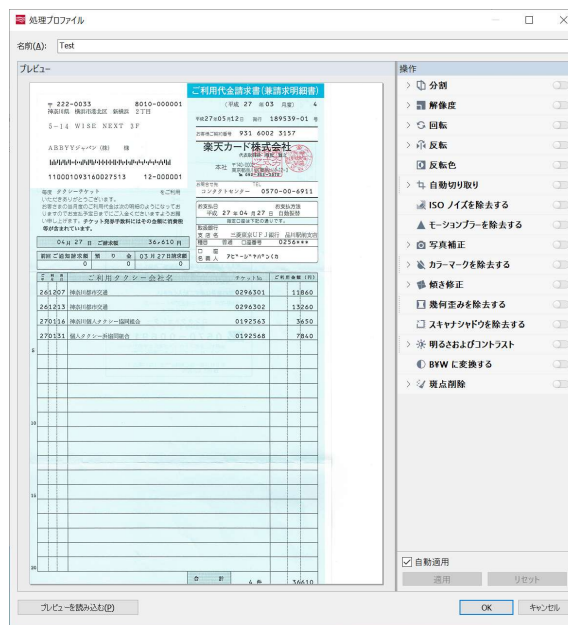


1. プロジェクト設定ステーション > プロジェクトのプロパティ > 画像補正プロファイルを開く。

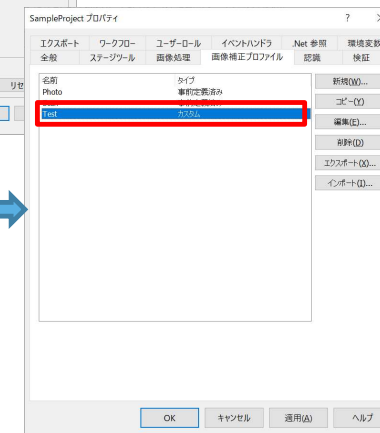


Photo, Scanはプリセットプロファイル(削除不可)。

2. 必要な画像処理を選択し、プレビューにて結果を確認後、適切な名前を付けて保存。

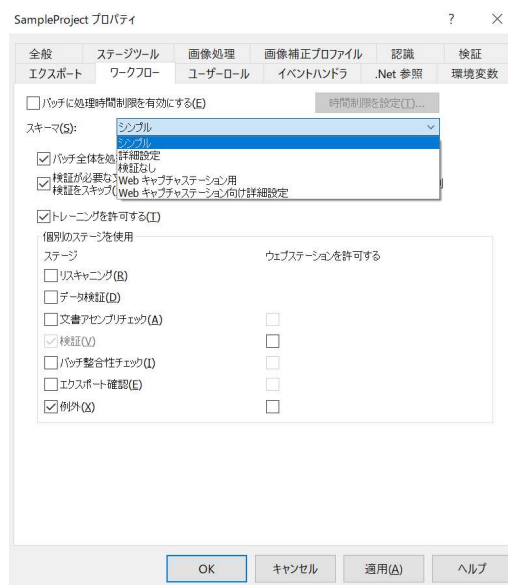


カラーマーク除去(赤)を選択した場合。



ワークフロー設定

1. プロジェクト設定ステーション > プロジェクトのプロパティ > ワークフローを選択



設定方法は、「シンプル」「詳細設定」「検証なし」「Webキャプチャステーション用」「Webキャプチャステーション向け詳細設定」が選択可能。

※本ドキュメントでは、例として「詳細設定」を解説。

2. 詳細設定デフォルト画面

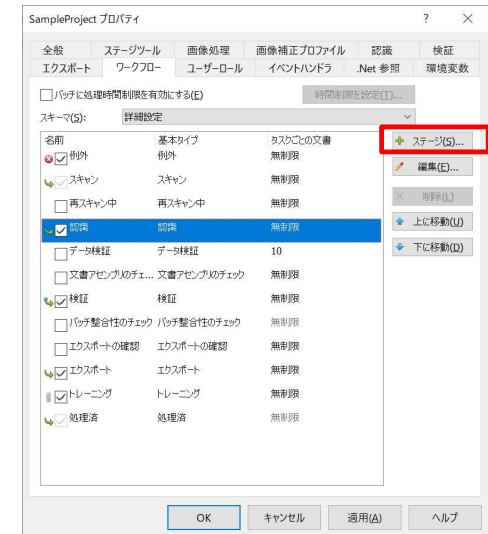


ステージ名を選択し、「編集」「削除」ボタンをクリックする事で、該当ステージの編集、削除が可能。
(※削除はカスタムステージのみ可能)

また、新たなステージを追加する場合は「+ステージ追加ボタン」をクリック、移動ボタンで順序の入れ替えも可能。

3. カスタムステージ追加例: スクリプトステージ

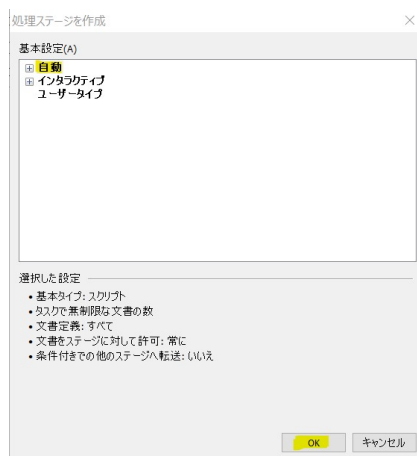
3.1. 認識ステージを選択し、「+ステージ」ボタンをクリック



ワークフロー設定

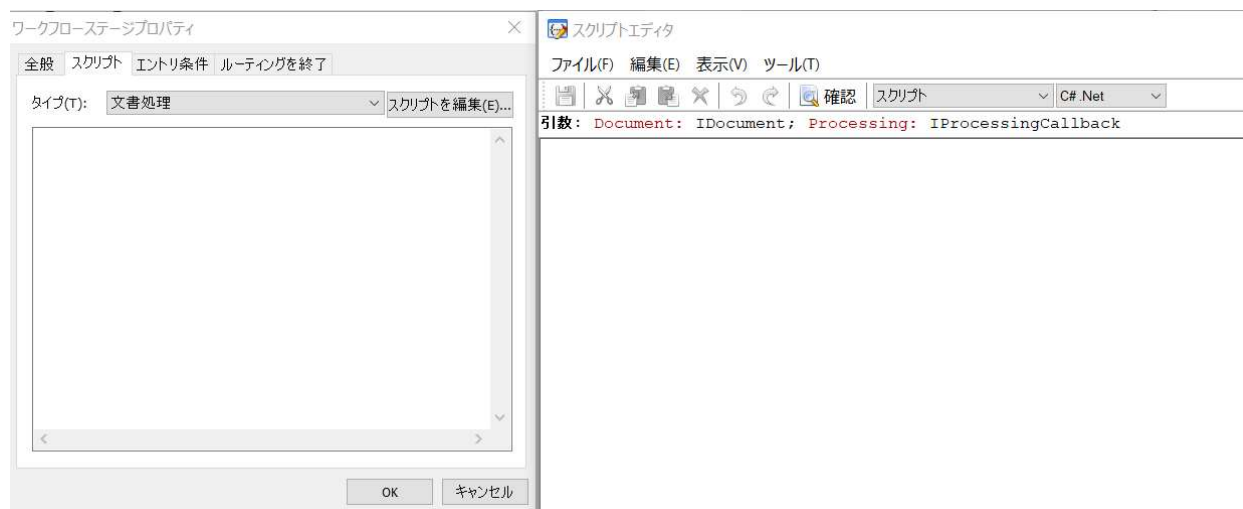
3. カスタムステージ追加例: スクリプトステージ

3.2. 「自動」を選択し、「OK」ボタンをクリック



3. カスタムステージ追加例: スクリプトステージ

3.3. 「スクリプト」タブで「文書処理(ドキュメント単位)」か「バッチ処理(バッチ単位)」かを選択し、「編集」ボタンをクリック、スクリプトを入力



カスタムステージの「スクリプト」で使える「オブジェクト」や「メソッド」については、以下のABBYYオンラインヘルプトピックをご参照ください。

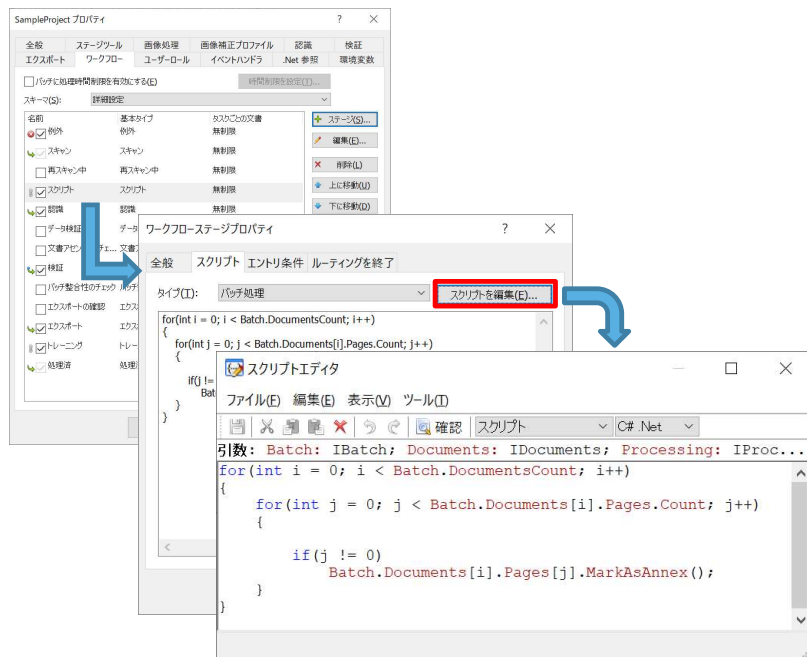
https://help.abbyy.com/ja-jp/flexcapture/12/developer/scripts_handling

ワークフロー設定



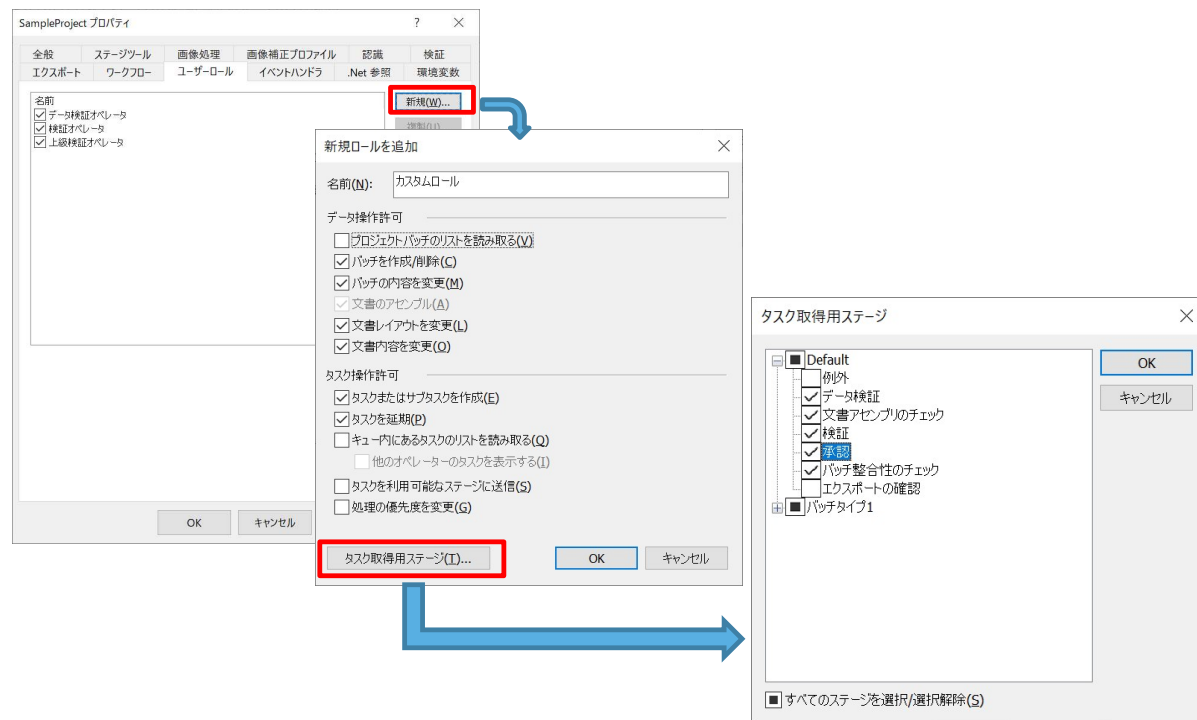
3. カスタムステージ追加例: スクリプトステージ

3.4. スクリプト例



上記例は、入力がPDF等の場合、(認識ステージ前に) 1ページ目以外OCR対象外(付録ページ)とする設定。

4. カスタムユーザロール ワークフローステージに対し、カスタムユーザロールを作成可能



※データ検証オペレータ、検証オペレータ、上級検証オペレータはプリセット

関連記事一覧

カテゴリー	記事
インポートプロファイル	Hot Folder: ホットフォルダを設定したい - Standalone版
	Hot Folder: ホットフォルダを設定したい - Distributed版
	ホットフォルダ からの インポートに必要なアクセス権 - Distributed版
	HotFolder: ホットフォルダで自動的に作成された Batchに自動的に意図した名前をつけたい。
イベントハンドラ	スクリプト - イベントハンドラ - イベントの使い分け
ワークフロー	ワークフロー - データ検証、検証、エクスポート...各操作を クライアント、Web側で行うかどうか、処理の流れ、各処理の実行条件の設定を行う - Distributed
	ワークフロー: データ検証ステーション にタスクを送りたい - Distributed
	ワークフロー: あるユーザーが検証の途中で状態を保存し、他のユーザーがそれを確認し、検証し、また別のユーザー確認・途中保存が見えるように共有して管理したい - Distributed - Web検証ステーション
	検証 - 検証の途中までの作業状態を保存して、タスクを戻し、作業を中断したい
	ワークフロー: カスタム(スクリプト)ステージを追加したい

Thank you!!